

令和5年度学位記授与式学長告辞

九州工業大学 学長 二谷 康範



て感謝する大切な機会でもあります。

皆さんは、4年前に発令された突如の緊急事態宣言を受け、出口が見えない中で大学生活を始められ、あるいは、楽しく過ごしていたキャンパスライフを突然奪われたのではないかと思います。生活様式の激変を乗り越えられた皆さんは、これからの人生での困難もきつと克服されることでしょう。大切なことはこうした出来事を貴重な経験と捉えて、何事に対しても前向きに取り組むことができる姿勢です。これからの人生では、常識に囚われず、大学生活でのいろいろな出来事に対する経験を糧とし、たくさんのチャレンジを楽しみながら実行してください。

さて、皆さんの大学生活の中でのもっとも大きな変化として、私たちの生活の多くの場面においてAIが溶け込んできたことが挙げられます。

皆さんもいろいろな機会で生成AIを活用されたのではないのでしょうか。ChatGPTに代表される生成AIの普及がその最たるものだと言えるでしょう。一方で、生成AIが人間の能力を超える技術的特異点、いわゆるシンギュラリティが現実味を帯びてきました。その結果、人間の仕事の多くの部分がAIに奪われるのではとの懸念が広がっています。ここまで生成AIが進化してくると、今私がお話している告辞の内容もAIに作成してもらったのではないかと考えてもおかしくない時代が到来しています。

このような中、皆さんはAIに仕事を奪われないようにこれからどのように心がけていかねばならないのでしょうか？ AIがほくそ笑んで見ているのはいわゆるマニユアル人間や指示待ち人間だと考えられます。これに対して、いわゆる人間力として捉えられている、豊かな人的ネットワークと経験並びに行動力に基づき、何事にも好奇心を持って物事を考え抜いて課題発見や課題解決を行うことを常に心がける姿はAIでは

代替できない能力だと思えます。

幸いなことに、今日、九州工業大学を卒業・修了された皆さんは、様々な場面で社会課題の発見やそれらの解決を経験できる場面があったかと思えます。本学では知識や経験をもとに物事を考え抜く機会を増やし、社会課題に挑戦できる環境を整えてきましたが、こうした環境を効果的に活用してきたことで、皆さんは習慣的にクリティカルシンキングを行う能力を身につけ、今後も皆さんのことを学び続けることができるとは思っています。大切なことは、この卒業が学ぶことに対する卒業であってはならないのです。これからも様々な機会を利用して学び続ける姿勢を持ち続けてください。

これからは環境問題、資源・エネルギー問題、国際紛争・分断、国際政治情勢など数々の極めて難しい制約条件が課された中での社会活動が強いられます。大きな困難を伴いますが、ピンチをチャンスに変えられる柔軟な発想と行動が勝負の分かれ目になるのです。本学で培った確か

本日、ここに令和5年度の学位記授与式を挙行することができました。本日、学位を取得された皆さん、おめでとうございます。九州工業大学の教職員を代表して心よりお祝い申し上げます。また、この日まで卒業生・修了生を物心両面から支えてこられました保護者、ご家族の皆様にもお祝いと感謝の気持ちをお伝えいたします。本日、学位記を手にされ、研究に没頭した日々や、仲間と一緒に過ごした日常など、思い出されていることでしょうか。また、本日は、日ごろから学生の皆さんを支えてこられたご家族、先輩、友人、仲間の力添えと恩師の導きに、皆さんが改め

な技術力、倫理観、大学生活で関わった世界中の人々との絆、そして、グローバルコンピテンシーに裏打ちされた皆さんの若い力と行動力・突破力が遺憾無く発揮され、これからの日本社会を飛躍的に発展させ、その過程が世界を平穏な状態に戻す力強い復元力として作用し、世界の繁栄の原動力になることを楽しみにしております。

これから社会に巣立っていく皆さんにおいては、本学で身につけた能力を十二分に活かし、様々な困難を乗り越えていくことを確信していますが、色々な場面で行き詰まった時は是非今一度大学を頼ってみてください。これまでの信頼関係に基づく相談の場というだけでなく、連携の場としての役割に加えて学び直しの場として九州工業大学は進化を続けていきます。私がかねてより、大学を若者だけを育てるための場所にしてはいけないと考えています。年齢、ジェンダー、国籍、民族などの多様な属性を持った人々が集まって、はじめてイノベーションが爆発的に発生するものであるからです。

最後になりますが、皆さんが、九州工業大学における多くの良き出会いを財産として、この変化に富んだ時代の中で、生活を楽しみ、多くの事を感じ、考え、学び続け、活躍されますことを祈念し、皆さんの栄えある門出を心から祝福申し上げ、告辞と致します。

本日は、誠におめでとうございます。

学位記授与式 式典スナップ



明専会 高原会長の祝辞



三谷学長の告辞



会場の様子



修了生・卒業生総代答辞

卒業式 祝辞（令和5年度卒業式）

一般社団法人明専会 会長 高原 正雄



一般社団法人明専会を代表して、皆さんのご卒業を心よりお祝い申し上げます。また、皆さんを永きに亘って見守り、そして、薫陶されて来られたご両親などにおかれましては、この日のお慶びはひとしおのことと拝察申し上げます。本当におめでとございます。

学部卒業生の皆さんにとっては、入学と同時に蔓延が始まった新型コロナウイルスのせいで、大学生活の中で最も大切な学問や課外活動での先生や学友との密着や群れ合うといった機会が奪われるなど、かなり抑圧された学生生活だったと同情申し上げます。反面、文明の利器を活用され、従来

にはあまりなかった新しい形でのコミュニケーションを取ることができたかと思えます。いずれにしても、永きに亘る学業生活を終えて、いよいよ新しい道に進むこととなりますが、これまでに培った高度な知識や見識を身に携え、大志を抱いて社会に大きな一歩を踏み出してくださいと思います。

本学は、今から115年前の明治42年（1909年）に炭鉱王・安川敬一郎翁と教育界の巨星・山川健次郎先生が崇高な理念「技術に堪能なる士君子の養成」を掲げて創立させた私立明治専門学校に始まる名門校であります。卒業生の皆さまは、世の中に巣立っても、この名門意識を胸に抱き、そして、その名に恥じないプロフェッショナル・エンジニアを目指して欲しいと思います。皆さんの先達の多くの方が、官・学・産・民の分野で多大なる貢献をされてきました。その先達たちの足跡を辿ると、

共通することは、世のため人のために人生を捧げたということでありました。

そこで、これから大志を抱いて世の中に巣立つ皆さんにはなむけの言葉として、技術者倫理のお話を致します。まず、皆さんが学問として修めた工学の「工」の字について解説しますと、上の横棒（一）は「天地森羅万象の営み」を表し、下の横棒（一）は「人民社会の営み」を表し、それを繋ぐ縦棒（丨）が、「工学の真意を表す」と言われています。すなわち、工学に関わる技術者には、自然界におけるあらゆる現象や原理などを解明し、それを世のため人のために役に立たせる責務があるわけであります。しかし、技術者が天地森羅万象の営みの解明を駆使し、一般の人が知り得ない巧妙な不正を働いたとしたら、どうでしょうか。近年、日本の一流企業内で起こった数多くの不正事件は、いろいろな社内事情などがある中で発生したもののように報じられていて、それを技術者が言い訳にしているくらいがありますが、技術者としての義務を怠った最低の行為であります。皆さんは

世の中に出て、企業内での研究や開発・生産・販売などの分野で活躍されることとなりますが、技術者としての倫理感を強く持ち、不正に加担するのではなく、むしろ、不正を正す人間になっていただきたいと思えます。いろいろな場面で悩むことがあった場合、明専会の先輩・仲間によく相談するときと道が拓けます。皆さんが所属する明専会は、全国に45支部16分会を有し、加えて、北京・タイ・ベトナムなどに海外明専校友会を有する大きな団体であります。皆さんがどこに行っても、そこには同窓生がおり、強い絆で繋がっています。これは、皆さんにとっては大きな財産であります。事ある度に熱い母校愛と強い同窓の絆で明専会に集い、惜しみなく母校を支援して参りましょう。

最後に、今まで育てていただいたご両親やご家族のご恩に対しては、気持ちだけではなく、形あるものでしっかり感謝することが大切です。例えば、初任給の金額は、まずはお母様に差し上げることが、一番分かりやすい恩返しだと思います。

令和6年3月25日